料理サイトのデータから言語接触理論を考える：前置詞*with*の借入について

若松弘子 ・ 島田雅晴（筑波大学）

RQs:

1. 日本語と英語の言語接触の結果としてどのように英語(英語前置詞)が日本語に入っているか？
2. 文法研究の対象として言語接触のデータは有用か？

Data:

クックパッド株式会社と国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータ」内の英語前置詞を含む創作レシピのタイトル

先行研究:

- 「リンスインシャンプー」は「シャンプー入りリンス」（＝右主要部を持つ日本語の複合語）(Namiki(2003))
- 英語前置詞*in*と*on*：
  ①日本語の動詞として借入動詞に相当
  ②英語の前置詞としての借入
  (Shimada & Nagano (2014, 2017))

とろ～りチーズinハンバーグ

⇒チーズ入りハンバーグ

煮込みハンバーグインチーズ

水族館へ遠足♪inハロウィンシーズン♪

⇒イン＋時間表現

調査結果（概要）：

with句における主要部の位置		意味解釈		
右	(3%)	日本語動詞の読み	(97%)	入れる/加える；かける/振りかけ；のせる/トッピングする/デコる；添える
左	(96%)	英語前置詞的用法	(3%)	独立随伴
				道具
				主原料・主材料
等位構造	(2%)			

基本的用法はin/onと同じ

鯛のポアレwithバルサミコソース

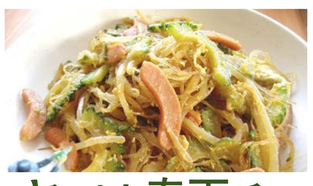
⇒ポアレのバルサミコソースがけ

サクサクココナツクッキーwithチョコ
（ココナツを入れることでサクサク歯ごたえが楽しいです。）

⇒ チョコ入りココナツクッキー

調査結果：― *with* の特徴 ―

1. 左からの名詞修飾構造が可能なのは日本語の動詞に読み替え可能な場合のみ



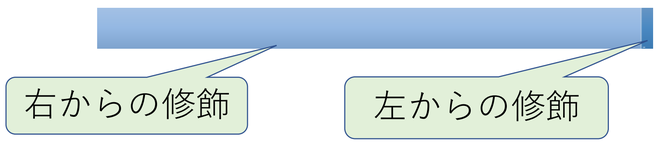
ゴーヤwith春雨チャンプル～♪

⇒ゴーヤ入り春雨チャンプル

（お好きな量だけベイリーズをかける）
ベイリーズwithアイスクリーム

⇒ベイリーズをかけたアイスクリーム

2. 左からと右からの名修飾構造の実例数



極端な差がある

3. ①独立随伴；②道具；③主原料・主材料は右からの名詞修飾構造のみ → **英語の前置詞用法**

ピクニックから揚げ♪
with Coke

⇒から揚げwith独立随伴

モリ食堂【節分豆茶飯with 釜】

⇒豆茶飯with道具

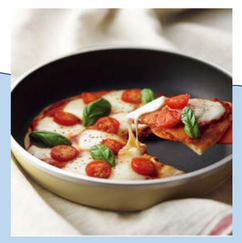
栗ごはん☘with黒米

⇒栗ご飯with主原料

アンケート調査（回答者数55人，2017年11月実施）

チーズとろとろピザ ☆ フライパン with
違和感あり（91%）＞ 自然である（4%）

チーズとろとろピザ ☆ with フライパン
違和感あり（45%）≒ 自然である（44%）



4. 随意性

「バナナのスイーツ　with甘酒とシナモン」
（最後にお好みでシナモンをふりかけてできあがり！）

「＊チキンソテーwithオニオン＊」
（※玉葱なしの場合はこの工程不要．）

― *in* / *on* との相違 ―

with には ①原材料読みと②随意性読みがある

結論:

- 英語前置詞を日本語の動詞として読む場合はfigure/groundの解釈が関わる。英語の前置詞として借入される場合はそれがない
- 言語接触の現象は文法構造に依存していることを示している（文法研究の対象になる）

今後の課題:

- 左からと右からの名詞修飾の数が違うのはなぜか？
- 「ハンバーグチーズイン」や「ミートボールトマトオン」と異なり，「アイス黒豆with」という語順は容認されにくい（アンケート調査結果）のはなぜか？

謝辞: 本研究ではクックパッド株式会社と国立情報学研究所が提供する「クックパッドデータ」を利用しました。また，科研費（16K13234）の補助を受けています。

主要参考文献: 竝木崇康(2005)「日本語の新しいタイプの複合語『リンスインシャンプー』と『リンス入りシャンプー』」大石強ほか編『現代形態論の潮流』，くろしお出版, 1-19. /小野雄一・呼思楽・森野綾香・若松弘子・砂川詩織 (2017)「日本語の料理名に出現する英語前置詞の借用について：Cookpadデータと実証実験から見えるもの」『言語処理学会第23回年次大会発表論文集（2017年3月)』/Shimada, Masaharu & Akiko Nagano (2014) “Borrowing of English Adpositions in Japanese,” *Abstract of LAGB (Linguistic Association of Great Britain). Annual Meeting 2014 .*／Shimada, Masaharu & Akiko Nagano (2017) ”*Use of English prepositions as Japanese predicates: A challenge to NLP*”『言語処理学会第23回年次大会発表論文集 (2017年3月)』